

神岡地域農業集落排水施設 保守管理業務委託（長期継続契約）仕様書

（総 則）

第1条 神岡地域農業集落排水処理施設保守管理業務委託（以下「本業務」という。）は浄化槽法、労働安全衛生法、農業集落排水処理施設維持管理マニュアル及びこの仕様書に基づいて行わなければならない。

（適用範囲）

第2条 神岡地域農業集落排水の処理施設、中継ポンプ場等の保守点検を行い、農業集落排水施設全体の機能が十分に発揮されるよう維持管理を行わなければならない。

（業務場所）

第3条 本業務は、次の処理施設等について行うものとする。

処 理 施 設 名	神岡西部処理センター
所 在 地	大仙市神宮寺字宇留井谷地 3 3 9-1
処 理 方 式	JARUSⅢ型（1系列）
中継ポンプ施設	1 2 箇所（内 宅内ポンプ 1 箇所）
計 画 処 理 人 口	7 4 0 人

処 理 施 設 名	旧神岡東部処理センター
所 在 地	大仙市神宮寺字萩原 5 0-1
処 理 方 式	JARUSⅢ型
中継ポンプ施設	1 1 箇所
計 画 処 理 人 口	9 9 0 人

（業務概要及び期間）

第4条 施設を有効に維持するため処理施設の点検保守を行い、機器と水質について技術的な管理を行わなければならない。

本業務の期間は、令和8年4月1日から令和9年3月31日までとする。

（一般事項）

第5条 本業務の実施にあたっては、発注者側と緊密な連絡を取りながら行わなければならない。本業務に従事する技術管理者は十分な経験を有した者で、浄化槽法及び環境省令で定める資格を有した者でなければならない。

（点検保守基本条件）

第6条 維持管理のための定期巡回及び槽内清掃は次のとおりとする。

●農業集落排水処理施設

保守点検の定期巡回	1 ヶ月に 2 回以上
場内環境整備（草刈り等）	1 年間に 3 回程度

●中継ポンプ施設

保守点検の定期巡回	1 ヶ月に 1 回
槽内清掃	1 年間に 1 回

受注者は、別途様式により管理日報を作成し、作業写真を添えて発注者に報告するとともに、自らも 3 年間保存しなければならない。

受注者は、施設又は稼働状況に異常を発見したときは速やかに監督職員に報告するとともに、必要な措置をとらなければならない。

(点検保守項目)

第 7 条 処理施設の正常な機能を維持し、良好な水質を得るため、次のような維持管理を行うものとする。

(1) 前処理

- 1) 異常な臭気の感知
- 2) 異常な発生音の感知
- 3) 異常な水位の痕跡の確認
- 4) 異常な結露、換気装置

(2) 自動荒目スクリーン

- 1) 自動荒目スクリーンの運転状況
- 2) スクリーンの目詰まり、流路の滞留物の除去
- 3) し渣、糞塊等の除去
- 4) 案内板、シーリングゴムのセット状況
- 5) 異常な水位の痕跡の確認

(3) ばっ気沈砂槽

- 1) ばっ気攪拌状況 (ばっ気量の調整)
- 2) スカムの浮上、発泡、毛髪の巻き付き
- 3) 流路の滞留物の除去
- 4) 砂溜槽内の土砂及び汚物の除去
- 5) 沈砂排出ポンプの揚水確認

(4) 破砕機及び細目スクリーン

- 1) し渣かごのし渣の除去
- 2) スクリーンの目詰まり、流路の滞留物の除去
- 3) ピット内の排水状況
- 4) 破砕機の運転状況

流量調整施設の点検保守

(1) 流量調整槽

- 1) 攪拌状況
- 2) 流量調整ポンプの揚水確認
- 3) レベルスイッチ
- 4) 汚泥等の堆積状況
- 5) 異常な水位の痕跡の確認

- (2) 自動微細目スクリーン及びスクリーン槽
 - 1) し渣の除去
 - 2) 自動微細目スクリーンの運転状況
 - 3) スクリーンの目詰まり、流路の滞留物の除去
 - 4) 異常な水位の痕跡の確認
 - 5) 排気吸込口

- (3) 汚水計量槽
 - 1) 移送水量
 - 2) 三角せきの越流阻害
 - 3) スカム及び槽底部の汚泥堆積状況
 - 4) 移送汚水の観察
 - 5) 排気吸込口

生物処理施設の点検保守

- (1) ばっ気槽
 - 1) 運転状況の設定
 - 2) 沈殿槽の水位、移送水量
 - 3) 攪拌、ばっ気攪拌の状況
 - 4) 活性汚泥保持
 - 5) 処理水の状況
 - 6) 余剰汚泥の引き抜き状況

- (2) 散水ポンプ槽
 - 1) 堆積汚泥の引き抜き移送
 - 2) レベルスイッチ
 - 3) 散水ポンプ稼働状況

消毒施設の点検保守

- (1) 消毒槽
 - 1) 消毒剤の補充
 - 2) 消毒槽内のスカム及び堆積汚泥の引き抜き移送

汚泥処理施設の点検保守

- (1) 汚泥受槽
 - 1) 脱離液
 - 2) 濃縮汚泥の界面測定及び引き抜き移送
 - 3) 濃縮汚泥の引き抜き残量、スカム厚の測定
 - 4) 汚泥引き抜きポンプ本体
- (2) 汚泥貯留槽
 - 1) スカム厚、汚泥堆積厚の測定及び脱離液の有無
 - 2) 汚泥の系外搬出の時期の判断及び連絡

(3) 汚泥量調整設備

- 1) 調整汚泥移送設備（ポンプ）の作動状況及び移送量の点検
（電磁流量計の単位処理量及び日処理量の確認）
- 2) し渣除去ストレーナーの作動状況確認（除去し渣の排除）
- 3) 調整汚泥循環槽の攪拌状況の点検
- 4) 汚泥高圧ポンプの作動状況の確認
（運転時間及び移送量が設定値と異なっていないか）
- 5) 高圧噴流反応槽の運転状況の点検（噴射ノズルの状況確認）
- 6) 汚泥分配槽の運転状況の点検（分配状況の確認）

排気吸気設備の点検保守

(1) ダクトを用いた換気設備

- 1) 排気ファン、ダクトの異常音、異常振動、損傷
- 2) 臭気の有無
- 3) 給・排気の防虫網、ガバリ等の付着物の除去
- 4) スクリーンカバー等

(2) 換気扇

- 1) 換気扇の異常音、振動、付着物の除去
- 2) 給・排気口及び屋内外の異常音の確認
- 3) 給・排気口の防虫網、ガバリ等の付着物の除去
- 4) 室温の調整

中継ポンプ施設の保守点検

- 1) ポンプ、槽内のきよ雑物の除去及び清掃時期の判断
- 2) 電気設備の保守点検
- 3) 道路上のマンホール蓋の状況及び足かけ金具の腐食等
- 4) 不明水の侵入状況

(消耗・消耗品の交換)

第8条 故障又は異常に伴う修理は速やかに対応するとともに、これに要した費用は両者協議の上決定するものとする。消耗品の交換は、原則として定期巡回時に行わなければならない。

(水質管理)

第9条 水質状況により、施設の稼働状況、負荷状況等を的確に把握し、処理機能が十分に発揮されるよう定期的な水質検査を行わなければならない。

(緊急対応)

第10条 自然災害、故障その他の理由で、機器停止など緊急事態が発生、又は予見される場合、適切な措置を行わなければならない。

(特記事項)

第11条 定期巡回以外においても、発注者が必要と認めるときにおいては立ち会うものとする。また、処理施設運転状況等の書類作成が必要な場合には、協力しなければならない。

(内容変更)

第12条 本仕様書内容等に変更が生じた場合、また定めのない事項については両者協議するものとする。

神岡地域農業集落排水施設水質検査内容

番号	試 験 項 目	記 号	数 量	単 位	備 考
	放 流 水				1ヶ月に1回
1	浮遊物質	SS	12	回	
2	生物科学的酸素要求量	BOD	12	回	
3	大腸菌数		12	回	
4	全窒素	T-N	12	回	
5	全リン	T-P	12	回	
	流 入 水				3ヶ月に1回
1	浮遊物質	SS	4	回	
2	生物科学的酸素要求量	BOD	4	回	
3	全窒素	T-N	4	回	
4	全リン	T-P	4	回	